

氏名	奥山 真由美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博乙第4468号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	博士の論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文の題目	特別養護老人ホームに入居中の要介護高齢者の脱水前段階の身体徴候 —腋窩皮膚温・湿度，口腔内水分量，唾液成分との関連—
論文審査委員	深井喜代子 教授、齋藤信也 教授、兵藤好美 准教授

学位論文内容の要旨

特別養護老人ホームに入居中の要介護高齢者の脱水症の前段階状態に関連する要因を、腋窩皮膚温・湿度、口腔内水分量、唾液成分との関連から検討した。血清浸透圧値の基準値上限である 292 mOsm/kg・H₂O 以上かつ脱水症の診断基準値 300 mOsm/kg・H₂O 未満の者を境界域群とし、292 mOsm/kg・H₂O 未満の者を正常域群とした。78名の入居者を対象に、基本属性、BMI、食事形態、1日水分摂取量/体重1kg、血圧、脈拍、体温、腋窩皮膚温・湿度、体水分量、体水分率、内液率、外液率、血液成分、口腔内水分量、唾液成分、室温・湿度を測定した。統計解析は、境界域群・正常域群別の比較を行い、血液成分を除く有意水準が0.05未満の変数を選択し、境界域群を目的変数とし、年齢、1日水分摂取量/体重1kgを調整変数としてロジスティック回帰分析を行った。最終モデルにおいて腋窩皮膚温（オッズ比：3.664、95%信頼区間：1.101-12.197、p=0.034）のみが有意な関連を示した。以上より、脱水症の前段階状態には、腋窩皮膚温が関連することが示唆された。

論文審査結果の要旨

論文審査要旨：この論文は、一市内2ヵ所の特別養護老人ホームに入居中の要介護高齢者78名を対象に脱水症の前段階状態の関連要因を検討したものである。申請者はまず、脱水症の診断基準である血清浸透圧値を用いて対象を正常域群（n=60）と境界域群（n=18）に分け、ロジスティック回帰分析を行った。その結果、33項目の説明変数のうち、脱水症を証明する標準的な指標（体温、腋窩湿度、唾液成分、口腔内水分量など）には著明な差は見られなかったが、腋窩皮膚温が平均0.4℃有意に低かった。本研究では、対象は限られた施設の少数例にすぎず、看護の重要な視点である身体観察（脈の緊張度や体位による静脈の怒張など）も行われていない。限界のある対象と要因の分析では理論構築には限界がある。しかしながら、入念な文献検討と鍛錬した技術によって得られたデータそのものの信頼性は高い。そして、注目すべきは、両群の体温と腋窩湿度に差がない状態で境界域群の腋窩皮膚温が0.4℃高かったという事実で、無視できない新知見を得た点である。この知見の着目し、この真偽を問う周到な計画による今後の研究が期待される。

以上より、研究の着眼点と今後の発展性の観点から、本論文は保健学研究科看護学分野における博士論文に適合すると判定した。